

PSI世界執行委員会 EB-153
2018年11月14～15日
ILO第5会議室
ジュネーブ
スイス



決議

移民、難民、強制避難民の人権を保護し、ファシズム、人種差別、排外主義に断固反対し、すべての人々が質の高い公共サービスを受ける人権を擁護することに、PSIが確固たる姿勢で尽力することを再確認する。

- 現在の政治的シナリオは、先進国と途上国の多くで、人種差別的で排外主義的なプロパガンダを掲げた極右、国粋主義的大衆政党および権威主義的政府が台頭するという非常に不安な動向を呈している。
- こうした主体は、移民、難民、庇護申請者、強制避難民をさまざまな経済社会的病のスケープゴートに使い、虚偽に満ちた情報を広げ、彼らを国家治安とアイデンティティに対する脅威、そして公的資源への重荷として捉えている。
- そうした誤解を招く情報は、労働者の仕事を奪い、公共サービスを蝕み、環境を破壊し、緊張と紛争を煽るネオリベラル的な政策と企業の欲など、人を避難に至らせる本当の要因から注意をそむけるものである。
- 労働者、進歩的なリーダー、労働組合、市民社会組織、そして移民コミュニティなどのコミュニティは、こうした否定的な情報にこれまでも抵抗してきたが、今後も強く抵抗を続ける。また、この抵抗を強く支援し、強化していく必要がある。
- 「利益よりも人々を優先」する国際公務労連の行動プログラム（2018～2022年）は、移民、難民、強制避難民の扱いに対して、人権に基づくアプローチをとり、ディーセント・ワーク、社会的保護、質の高い公共サービスを受ける彼らの権利を擁護することを約束する。

よって、2018年11月14～15日に会合する国際公務労連（PSI）世界執行委員会は、人種差別的かつ排外主義的で移民と貧困層を排斥する極右派のプロパガンダを強く非難する。

PSIは、移民、難民、強制避難民の人権を保護し、ファシズム、人種差別、排外主義に断固として反対し、すべての人々が質の高い公共サービスを受ける人権を擁護することに、確固たる姿勢で尽力する。

PSIは、今後も移民、難民、強制避難民に優先的に取り組むよう専心する。PSIのすべての部門と地域においてこのプログラムを調整し、必要な資源を配分するとともに、難民に関する国連グローバル・コンパクトおよび移住のための国連グローバル・コンパクトへの取り組みなど、国家、地域、世界のアドボカシー活動において労働組合運動および市民社会と幅広く連携して取り組む。